

令和2年度 西砂学習館運営協議会（令和2年7月）会議録概要

日 時：令和2年7月9日（木）午後6時～9時00分

出 席：大橋 加藤 広瀬 進藤 長谷川 小笠原 岩元 小林 森 増田

事務局：石川 俣本

欠 席：なし

1. 開会のあいさつ

大橋：東京都のコロナウイルス感染者数が224名出たとのこと。若い人達の感染が多い。九州地方から岐阜・長野まで記録的な豪雨が続き、コロナ禍でどのような避難が出来るかが心配であり大変な状況と感じている。

「地元を学ぼう」の講師としてお願いしている豊泉先生が先日90歳になられた。地元を学ぶ講座へ地域の方の参加が少ないこと、若い方の講座への参加が少ない事を憂いていた。豊泉さんご自身の知識や体験した事柄を若い方に伝承していきたいという思いが強い。1回1回の講座を大切にしながら臨みたいと思う。

2. 令和2年度地域活性化講座について

(1) 「西砂サマーイベント～火曜日は学習館に行こう！」について

石川：「西砂サマーイベント」は西砂地区限定の為ホームページや広報には掲載せず、チラシを西砂小、松中小、7中へ配りPRする。午後の学生ボランティアはこれから依頼。昨年は児童館職員もお手伝いに参加して頂いたので小笠原館長に確認する。

大橋：6月17日に私と石川係長と岩間先生の3人で打ち合わせをした。講座中はコロナ対策としてマスク着用、手洗いの徹底、定員、座席の消毒や向き、支援者の入り方等について細かく詰め、森委員が懸案していた講座の難易度もお聞きした。岩間先生は中学校の数学の先生で、小学生にも対応できる経験値をお持ちの方。難易度は折り紙の頂点さえ合わせる事が出来れば、初心者でも出来る内容なので問題はないとのこと。

石川：「紫キャベツで色遊び」について簡単に説明します。紫キャベツは不思議なキャベツで酸をかけると紫色からピンク色に変わる。アルカリ性か酸性か試薬的な要素があり、例えば酸性の溶液としてトイレの洗剤等がある。試験管の下の方にアルカリ性の物質を入れて置き、少しずつ酸を入れると酸の変わり具合でピンクから青色に黄色と紫色にそれぞれ変化する。酸の状態により紫キャベツの色が変わる。色が変わった試験管を上手に作った時の子ども達のドヤ顔を先生はとても好きと話してくれた。18日の「絵本でカルタ取り」は西砂図書館の職員が企画書を出してくれる予定ですので、分かり次第委員にお伝えします。チラシの中身で指摘を受けた箇所を変更しましたのでよろしくをお願いします。

(2) 「気楽に学べる認知症予防講座」について

石川：昨年度は中止になった。今年度は10月24日に実施が決まった。

(3) 「地元を学ぼう」について

石川：チラシ（案）を作成。定員は豊泉先生の了解を戴いて25名にした。

加藤：地域の若い人達に沢山声を掛けて理解して貰えたら良い。

大橋：フィールドワークの要素が今までなかったので、講座を行う事で西砂を知る提起になればと思う。

岩元：せっかくの企画なので参加対象を若い親子世代に絞ったら良いのではと思う。

大橋：伝える側が若い親子世代を希望している為、意図的に募集していかなくてはいけない。

加藤：過去の参加者の集計を見ると60歳以上が75%。

広瀬：PTAは若い世代であるし、自治会のチラシも良いと思う。せっかくのチャンスなので大々的に募集すると良い。

石川：講座情報誌「きらり・たちかわ」や広報たちかわに掲載予定ではあるが、止めて、「まちねっと」枠とPTA枠を作った方が良いか。

大橋：枠を設ける事も1つの方法。地元の人が参加できないと困るので、どうするかは次回までの宿題に。

(4) 「にしすな夜間塾」〈第4弾〉・〈第5弾〉について

大橋：講座後の食事の提供無しはこの様な時期なので理解して貰えると思う。

小笠原：定員は学習館と同様に考える必要があるが貸館や講座の制限は今の所ない。食事の提供無しでソーシャルディスタンスを保てば去年までと同様に講座はできる。定員は講師と子どもも含め25名迄なら座学は可能と思う。ヨガやハーバリウムはどこまで可能なのか心配な面はある。

石川：去年は2回とも運動系で実施。今年度はどの様な形にするか。回数は2回か。

広瀬：初めて来館する様な若い親子にも関心を持ってほしいと思う。

石川：1回目の開催日は11月6日（金）に決定。食事の提供が無い為、開始時間を遅くする事ができるので父親の参加がより期待できる。

森：動く講座だと大変なので座学が良いと思う。

石川：市民リーダーの冊子にランタン作りやお風呂のアロマボブ作りなどがある。アロマボブは昨年度西砂学習館で講座を行ったが、アイムと時期が重なってしまいあまり集客出来なかった。子ども達は泡が出る物が好きなので今回は沢山来てくれると思う。

加藤：市で保持している映画上映も良いと思う。

小笠原：カメラはどうか。一眼レフやデジタルカメラだけでなく、スマホで撮るコツも良い。

俣本：以前パパ対象「パパはカメラマン」という講座を実施した時は市内の新井写真館の方に講師になって頂いた。

広瀬:ボイストレーニングが人気。シルバー大学では受講料は無料で30名の定員の所に190名の応募があった。

大橋:若い人が好みそうな講座やご夫婦で参加し易い様にしたい。

(5)「西砂川の災害を考える」〈第5弾〉について

石川:9月29日に市民企画で「家族のための非常時ごはん」を生涯学習市民リーダーで立川市災害ボランティアネットメンバーの中村ひとみさんが講師で予定。昨年、地運協では「西砂川での災害を考える〈第4弾〉災害時クッキング」を実施した。

大橋:前回の講座の参加者は防災頭巾を作る講座に興味を持ってくれた。

広瀬:今まで災害の講座を毎年続けてきたので今年度は休みでも良いと思うし、切り替えていかななくてはいけないとも感じる。

岩元:ゲリラ豪雨が起きた時の危険な場所等、身に迫る災害を想定した講座を開く価値はあると思う。防災課の職員を講師に依頼しても良い。

森: コロナ禍での避難所生活や在宅避難時の最新災害情報取得の講座が知りたい。

大橋:連続講座については、広瀬委員が話していることも確かな事。今回の講座で区切りをつけられれば良い。

石川:西砂学習館も避難所となっている。ソーシャルディスタンスを考えてコロナ禍での防災計画を新たに立ち上げるとのこと。学習館は狭いため、避難所でなくなる可能性もある。

大橋:防災課職員が講師となった場合、特に知りたい点を事前にピックアップ出来たら良い。開催日時は12月6日(日)の午前10時~12時で決定。

(6)「西砂産業まつり」について

石川:コンセプトを考えて目的や方向性を事前に決めておかないと良いものにならない。自治会や地域の方を巻き込み、一緒に企画できたら良い。PTAやブラスバンド部にもお声がけしたい。「西砂学習館まつり」の秋バージョンのような催し物になると思う。今年は検討の年として、来年や再来年に実現出来たらと思っている。

大橋:森委員から提案。素敵なイベントになると思う。私達自身が産業祭りの趣旨がどの様なものか理解し、実現するためにはどの様な組織が必要か、どの様な力を貸してもらわなくてはいけないかを練らなくてはいけない。出来上がった時には地域が繋がった大きなイベントになる。どのような目的で行うかの意思統一が出来ればと思うので、各々が描く「西砂産業祭り」のアイデアや提案を次回までに考えてほしい。

3. 報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認(議事録)

大橋:何かあれば事務局へ。

(2) 西砂学習館地域運営協議会からの情報発信について (協議)

- ・「西砂学習館だより」
- ・ウェブサイト みんなの西砂川
- ・西武立川駅掲示板

石川：情報は発信しないと意味がないと思う。発信媒体はWeb サイト「みんなの西砂川」や西武立川駅の掲示板がある。2つをリンクさせて西武立川駅の掲示に常設にし、QRコードを読み込んだ上でWeb サイト「みんなの西砂川」に移る仕組み作りが出来たらと思う。情報誌に愛称を付けて発行したいと思う。自治会の回覧や配架を含めて多くの人に見てもらいたい。

大橋：西武立川駅の掲示板はキャッチフレーズがあれば尚良い。「学習館だより」で旬な情報を発信し回覧出来たらと思う。行っていることを知って貰える仕組みを作っていく、地域循環型の交流社会にしていかななくてはいけない。

広瀬：学習館の名称は制約があるので使わないほうが良いのでは。

岩元：名称は「一番」も必要。

加藤：西武立川駅掲示板だけでなく西砂地区の各掲示板の活用や回覧も行えば良い。

石川：立川バスにお願いすると、くるりんバスに無料で掲示物をつるして貰える。

長谷川：殿ヶ谷地区の若い世代は殆ど自治会に加入していない。若い世代にも情報が届けられたら良い。

大橋：知ってもらえたら協力者も出てくるかもしれない。学校の児童に情報を流せばある程度若い世代にも周知出来る。次回までにアイデア、キャッチフレーズ、キャラクター等の意見を考えてほしい。

(3) フリースペースについて

小林：フリースペースは8月末まで休み。子ども食堂は早ければ9月から再開予定。

小笠原：子ども食堂は9月から再開したい。市内の子ども食堂は現在全てストップしている。立川市は子ども食堂を行わないスタンスなのでボランティアも何か起きた時のジレンマを抱えている。栄町で「あおぞらファクトリー」のイベントを食堂の利用者に向けて、困窮者に関わらず持ち帰れる食品をお渡しする事業を1回行った。西砂地区でも行いたい希望があり場所をようやく確保出来た。7月に1度一番子ども食堂の実行委員で話し合いの場を持つ予定。

(4) 各委員からの報告及び連絡事項について

加藤：市民推進委員の活動は3月から会議や講座が全て中止。総会も書面評決で行った。ようやく昨日全体会を行った。7月から講座を開始する予定の4講座の内2講座が西砂学習館の開催。1つ目が7月11日から始まる「クラシック音楽入門講座」、もう1つ

は豊泉先生が講師の「知られざる立川の野仏めぐり-砂川編-」。コロナ感染症対策として、講師の前に仕切り版を置き、事前に参加者の検温、室内の換気を行う。9月1日～2日は森委員が講師のパソコン講座「Word入門」を予定。「交流クッキング」は今年度全て中止にし、来年度に持ち越しとした。

広瀬：コロナに対して慎重に考えている団体とある程度注意はしながら過度に気にしない団体とで分かれていると感じる。カウンセリングのサークルに行き、話をしていると気持ちが和らぐ。話すことや聞くことが大事な様に改めて感じる。

進藤：社会福祉協議会でも地域のサークル・サロンに少しずつ連絡を取り合い、今月くらいから再開し始めた所が増えてきた。夏ボランティアを今年も行っているが、受け入れ先が減ってしまっている。オンラインのズームでボランティアを受け入れてくれる所もあるので模索しながら少しずつ始めている。

小笠原：通常開催に近い状態になっている。7月からは学年制限もなくなり常時70～80名が館内にいる状況。賑やかな状況から近隣から注意を受ける機会もある。例年に比べて特に低学年の言葉が気になっている。ただ、1番我慢しているのが子ども達なので、一概には叱れない状況。7月3日に不登校や外に行きづらい子ども達の居場所作りの支援の場が市民ボランティアを中心にスタートした。残念ながら対象の子ども達は来ることはなかったが、どのような子ども達が対象となるのかを少しずつ探りながら行っていきたい。若葉では軌道に乗るまで半年程かかり、学校も少しずつ認知してくれるようになった。次回が9月開催予定。学校や家庭にアプローチをかけて、誰かと話をする機会を児童館が提供していることを子ども達に知ってもらい、自己肯定感を育み次に進んで貰えたらと思う。

長谷川：7月2日に青少健の第1回委員会を開催。大盛況だった。青少健も沢山の行事が中止になり、たいまつ祭りの中止も決定した。中学生の主張大会は実施予定で、新成人を祝う会は2部制行う予定。

岩元：文化会は総会が中止になり書面評決を行った。6月25日に第1回役員会を開催。行事は8月のカラオケ大会の中止が決まり、文化祭は9月17日の実行委員会で実施するかを検討する。

7中の学校運営協議会の委員もしている。不登校の生徒をどの様にしたら良いのかを先生達と長年一緒に考えている中で、初めて家庭と子どもの支援員に推薦され子ども2名の担当となった。いかに寄り添えるかを試行錯誤していて、立派な大人へと巣立っていく手伝いが出来たらと思っている。立川市生涯学習推進審議会の委員になった。生涯学習のお役に少しでも立てたらと感じる。

小林：フリースペースは子ども達と会える様に早いうちに再開出来たらと思っている。子ども達と元気に会えるように体調を整えておきたい。

森：西砂パソコン倶楽部はようやく7月から活動を再開。パソコン操作を受講者の傍で指導する時に対面にならずに横に着く形を検討中。9月の「Word入門」のテキストが出来

た。良い形で進められたらと思う。

増田：たちかわ・財政を考える会では、ようやく6月28日から「財政学習会」を再開。本年3月に発刊した市民財政白書第3弾を基にしての学習会は、財政部による「出前講座」から開始。より多くの市民の方々が主権者として行・財政のあり方を自らの目で確認できる動きにしていきたいと活動を進めている。コロナが国内外の事実を明らかにし、リスクに対し「国民の生命・財産」を守りえない、ただ法律に基づいた対応しかしていないことが明らかになったと感じる。私たち一人一人が自分の目でこれらの事実を認識し、力を合わせて対応を考える必要を痛感する。

石川：29日に来年度の予算検討会がある。西砂では保育室の雨漏りの修繕とワイヤレスアンテナの購入の予算計上を考えている。西砂学習館で気になる箇所があればご連絡下さい。

その他

大橋：次回までに課題を考えて頂けたらと思う。

※次回開催；次回は、8月20日（木）午後6時～ 西砂学習館